

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-140540

(43) 公開日 平成9年(1997)6月3日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 7 G 23/02			A 4 7 G 23/02	A
B 6 5 D 25/34			B 6 5 D 25/34	A

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平7-345359

(22) 出願日 平成7年(1995)11月28日

(71) 出願人 594109495

藤▲崎▼ トシ子

埼玉県狭山市狭山台3丁目3番地の11

(72) 発明者 藤▲崎▼ トシ子

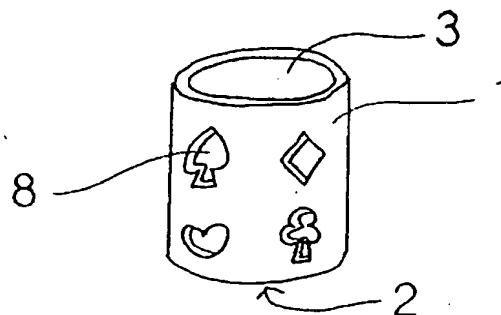
埼玉県狭山市狭山台3丁目3番地の11

(54) 【発明の名称】 びん入れ

(57) 【要約】

【課題】 水滴が付いたり冷え過ぎたびんでも気持ちよくおしゃれに持つことのできるびん入れを提供する。

【解決手段】 円筒形の側面部1には底2と透かし模様8が設けられている。内部の空間がびん入れ部3になっており、側面部1はびんに対してゆるみ無くしっかり保持されるのでそのまま手に持って注ぐことができる。



BEST AVAILABLE COPY

BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 中身を注ぐ際にもびんが抜け落ちないで保持でき、そのまま手に持って注ぐことのできるビールびん等のびんを入れるためのびん入れ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、ビールびん等のびんを入れて、そのまま手に持って注ぐびん入れに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、びん入りのビール等を注ぐ時には、むきだしのびんをそのまま手に持って注いでいた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 冷えたビール等は、びんの表面に水滴が出てきたり冷た過ぎたりして手に持った時に不快感があった。また、びんがむきだしなので味気無くおしゃれでなかった。本発明は、以上のような欠点を解決するためになされたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 そこで、中身を注ぐ際にもびんが抜け落ちないで保持でき、そのまま手に持って注ぐことのできるビールびん等のびんを入れるためのびん入れを提案する。

【0005】

【発明の実施の形態】 本発明を使用する時には、例えば、びん入れ部にビールびん等のびんを入れて保持し、それを手に持って中身を注ぐ。

【0006】

【実施例】 図 1 には実施例 1 の斜視を示し、図 2 には同実施例の使用例の斜視を示してある。本実施例は、プラスチック製で、円筒形の側面部 1 には底 2 と透かし模様 8 が設けられている。内部の空間がびん入れ部 3 になっており、側面部 1 はビールびん 9 に対してゆるみ無く摩擦によってしっかり保持されるのでそのまま注ぐことができる。また、ビールびん 9 をびん入れ部 3 に入れた時に透かし模様 8 があるのでおしゃれである。

【0007】 図 3 は実施例 2 の斜視図である。本実施例は、金属製で、円筒形の側面部 1 には底 2 が設けられており、内側にはびんに付いた水滴を吸収するためにコルク 4 が設けられている。図 4 は実施例 3 の斜視図である。本実施例では、側面部 1 と底 2 には開閉部 5 が設けられており左右に開くのでびんの出し入れが簡単である。側面の開閉部 5 には止め具 5 b が設けられており閉じて止められる。側面部 1 の上方には切り込み 6 が設けられており、ほぼびんの肩に沿った形でカーブしているため注ぐ時にびんが前に行くのを防いでびんを落ちないようにしている。また、切り込み 6 を設けないものでもびんの肩部分を覆うものであればびんを止める効果がある。

【0008】 図 5 には実施例 4 の斜視を示し、図 6 には

同実施例の使用例の斜視を示してある。本実施例では、側面部 1 は底が無くビールびん 9 の肩から首迄を覆うものでビールびん 9 に沿った形になっている。ビールびん 9 の肩や首迄を覆っているため注ぐ時にビールびん 9 が落ちることがない。上からかぶせるようにしてビールびん 9 を入れる。

【0009】 図 7 には実施例 5 の斜視を示し、図 8 には同実施例の使用例の正面を示してある。本実施例では、側面部 1 はビールびん 9 の外周に対応する形の螺旋状になっておりビールびん 9 の肩の部分迄ある。びん入れ部 3 には弾性がありビールびん 9 を入れた時に内側に付勢する力でビールびん 9 を保持する。

【0010】 図 9 には実施例 6 の斜視を示してある。本実施例では、側面部 1 は保冷性のあるシート状のもので、びんに巻いて使用する。側面部 1 にはびんにきっちり巻き付けて止めておけるように面ファスナー 7 が横に長く設けられており、びんの太さに合わせて調節できる。側面部 1 の内側に布等を用いてびんに付いた水滴を吸収するようにしてもよい。また、保冷性のないものでもよく、キルティング等を用いてもよい。また、面ファスナー 7 の代わりに長さ調節のできるベルトやひも等でもよい。

【0011】 図 10 には実施例 7 の斜視を示してある。本実施例では、側面部 1 はびん全体をすっぽりと覆ってしまう形になっている。底 2 には止め具 5 b の備えられた開閉部 5 が設けられており、底 2 を下方向に開いてびんを入れる。また、側面部 1 の上方には開閉自在のふた 1 b が設けられている。本実施例のものはびん全体を覆ってしまうのでおしゃれで豪華である。図 11 には実施例 8 の斜視を示し、図 12 には同実施例の使用例の正面を示している。本実施例では、側面部 1 と底 2 に保冷性のある材質を用いたもので、側面部 1 の上部周囲にはひも 7 b が通されておりひも 7 b を引いて縮めると袋状になる。びん入れ部 3 にビールびん 9 を入れビールびん 9 の肩を覆ってひも 7 b をきっちり閉める。ビールびん 9 の肩を覆って閉じているので注ぐ際にビールびん 9 が抜け落ちることがない。また、内側には吸水性の高い布 4 b が張られており水滴を吸収する。保冷効果のあるアルミシート状のものを用いてもよい。また、保冷性のない材質を用いたものでもよく、厚手のタオルやビニール等を用いてもよい。

【0012】 以上で具体的実施例の説明を終えるが、本発明は上記実施例に限られるものではなく公知技術等を用いて種々の態様をとりえる。例えば、使用材は金属やプラスチックやコルクに限らず、ウレタンやスポンジ等を用いてもよく、注ぐ時にびんが落ちないようにしっかりと保持する方法も種々ありバネ等を利用してよい。装飾も透かし模様だけでなく種々ある。実施例 1 の側面部の上部に布製のベルトを設けてびんの肩に巻き付けたり、たすきを掛けるようにしてしっかりと係止し注ぐ時

にびんが落ちないように止める効果を持たせてもよい。
また、実施例 4 で底部分に開放できるベルト等を設けて安定させてもよい。

【0013】

【発明の効果】本発明を使用すれば、水滴の付いたびんや冷た過ぎるびんも気持ちよく持つことができる上、豪華でおしゃれである。また、保冷性のあるものでは、冷えたビール等がぬるくなるのを防いで便利である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 実施例 1 の斜視図である。

【図 2】 実施例 1 の使用時の斜視図である。

【図 3】 実施例 2 の斜視図である。

【図 4】 実施例 3 の斜視図である。

【図 5】 実施例 4 の斜視図である。

【図 6】 実施例 4 の使用時の斜視図である。

【図 7】 実施例 5 の斜視図である。

【図 8】 実施例 5 の使用時の正面図である。

【図 9】 実施例 6 の斜視図である。

【図 10】 実施例 7 の斜視図である。

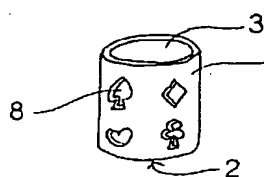
【図 11】 実施例 8 の斜視図である。

【図 12】 実施例 8 の使用時の正面図である。

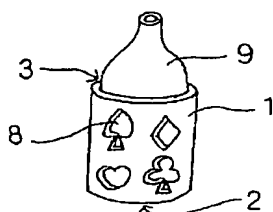
【符号の説明】

- 1 側面部
- 1 b ふた
- 2 底
- 3 びん入れ部
- 4 コルク
- 4 b 布
- 5 開閉部
- 5 b 止め具
- 6 切り込み
- 7 面ファスナー
- 7 b ひも
- 8 透かし模様
- 9 ビールびん

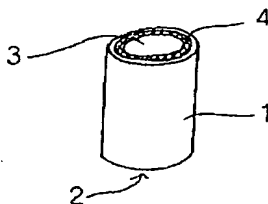
【図 1】



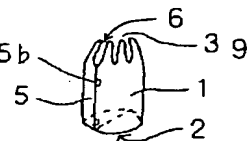
【図 2】



【図 3】



【図 4】



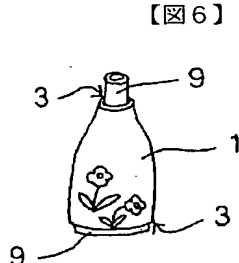
【図 8】



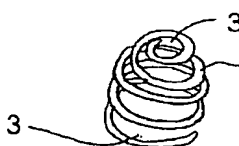
【図 5】



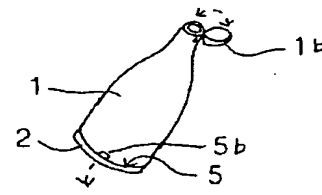
【図 6】



【図 7】

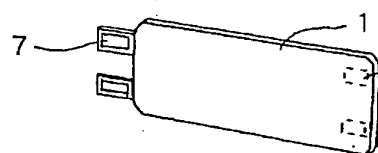


【図 10】



【図 12】

【図 9】



【図 11】

